

# 和光市廃棄物減量等推進審議会

## 第17回会議録（要録）

1 日 時 平成18年6月29日（木）午後2時30分～午後4時30分

2 場 所 和光市役所602会議室（6階）

3 出席者（敬称略）

【委員】（会長）西川 政晴 （副会長）竹村 幸子

（委員）井上 敬三（商工会） 原 光子 岸 佐登美 志村 浩明

横山 裕道 井上敬三（公募市民）

【事務局】市民環境部荒木部長 資源リサイクル課荒井課長 資源リサイクル課新坂課長補佐

リサイクル推進担当山崎統括主査 リサイクル推進担当嶋田主事

4 欠席者（敬称略） 【委員】齋藤 和康 柴田 充

5 傍聴者 2名

6 次回開催予定

平成18年8月21日（月） 午後2時00分～午後4時00分

和光市役所602会議室（最終答申等について）

**西川会長** 第17回和光市廃棄物減量等推進審議会を始めます。まず欠席の方を。

**資源リサイクル課長** 柴田委員さんと齋藤委員さんは、都合により欠席という報告を受けています。以上です。

**西川会長** 次に審議に入ります。今回が審議としては最後になります。前回、4月19日付けのものを、今回開かれる前に、会長、副会長を交えて最終計画書についてまとめて、皆さんにお諮りする、という話し合いをさせていただきました。事前に皆さん宛に、6月29日用というのを送付し、それに基づいて、柴田委員並びに岸委員から、意見、字句の訂正等ありましたので、それを踏まえて検討をしました。その結果が今日配られた基本計画で、それに基づいて、審議をします。何か配布されたものの中で、気がついたものがあれば、最初に伺いますが、何かありますか。

**横山委員** 5ページの上から4行目、「家庭・事業系別ごみ排出量」で上から4行目「なお、6年間の人口の伸び率」とありますが、5年間ではないですか？12年から17年だと、確かに年度としては6年間あるけれども。

**資源リサイクル課長** では5年間に訂正いたします。

**横山委員** はい。次に6ページ「1）可燃ごみ」の1行目の「12年度の82%から17年度の75%と約10ポイントの減少を示している」って、これ82から75を引いて7ですよ。これを単におよそ10ポイントとするより、「減少を示している」とかでいい訳で、7ポイントを四捨五入して10ポイ

ントというのは変だと思えます。

**資源リサイクル課長** これについても直します。

**竹村副会長** 10ポイントを削除して「75%と減少を示している」とすればいいですか。

**横山委員** 一番気になったのが、19ページ「可燃ごみ」等です。例えば「①可燃ごみ」の「・事業系について」に、「実績は12年度計画量の52.3%増」となっています。これは、12年度についての実績は、計画量の52.3%増という事で、そういう意味ですね、これ。でも、いくらなんでもそう読めないですよ。実績は12年度計画の52.3%増とか。「17年度では216.4%増」というのは実績が、と読み取られますが、その前の「実績は12年度計画量」だから、「実績を見ると12年度は、計画量の52.3%増となっており、17年度では」という表現、最後まで同じです。

資源ごみのところも「実績は12年度計画量の42%減」。12年度についてみると実績は計画量のいくらだって事に変えていかないと、パブコメかけても「何だ？」という事になる気がします。

そのあとの20ページ21ページにも出てきて、図を見ていると言わんとしている事は分かりますが、この辺のところ変えていただきたい。

それから、18ページの「全ごみ搬入量について」という事で、「12年度と17年度の計画量、実績の減量率の比較」という事は出ているけれども、これで大丈夫だとは思えません。

例えば事業系のところを、「実績についてみると」を入れて「12年度計画量の52.3%増となっており17年度では」と、いう風に。

「12年度計画量の」と言ってしまうと、これは12年度計画量の何%増とは一体何年度の事を言っているのかこれを読んだだけでは分からない。

それから26ページの「1. 計画目標」の、●の三つ目「ごみ量を平成15年度比で家庭系ごみは、1日1人当たりの排出量5%、事業系ごみは20%削減を目指します。」というのは、家庭系ごみは一日一人当たりの排出量5%減で、事業系ごみについては総量でとか入れないと、分かりにくい。

**西川会長** これ、いろいろ協議していく上で、データのちよっと合わないところがありまして、皆さんに、お諮りしたい事がありまして、後ほど。

私の方からご提案したいのですが、皆さんから意見が出た、「総括」で、今回22ページ、「計画達成のための取り組みの適否については、事業系の排出抑制を半減に近い45%削減するとしているには、具体策が大雑把であったと言えます。全般的に、具体策が目標達成のために体系的整理がされていなくて、推進体制の要である行政においても、年度ごとの目標に対する実績の総括と次年度の重点施策設定という検証と方針の行政展開が不十分だったと言えます。」という総括ですが、最終的なまとめの文章として、これでよろしいかどうか皆さんに伺いたい。

行政的な表現としてこれが最大限の表現か、という審議もしたのですが、今回は最後になりますので、総括の最終的な文章としての是非を、諮りたいのですが、いかがでしょうか。

**井上委員（公募）** この総括が、抽象的に簡単にまとめられていて、本当に総括を生かして計画が立てられているのか疑問を感じます。もう少し見直しが必要。問題点の解析が出来ないと、次の計画は立てられないですよ。

**竹村副会長** 最後に、次年度の重点施策の検証だとか方針の行政展開が不十分だったという事で反省していて、今度の基本計画の第四次に重点目標を掲げて、進捗状況を見るという風になっていますから、それで統括という文言を受けて次に行っている、と私は理解しました。今までは、重点目標の中にやりますという事だけあったその計画について、いざやってみたところ、大雑把で、具体策が何も無い。結果的に目標に達していない。家庭系ごみは減ったけれども、事業系ごみだけが増えた。ここ5年、10年の間に、環境が変わり、国の施策も変わってきていますので、そういう事で結局、出来なかったり、現実に実績値としては不十分、という意味からすると、和光市だけの反省ではなくて、全体の反省みたいな話になるのではないのか、と私は受け止めました。

**西川会長** 次回の審議会が行われる時に、不十分であったという文章が載らないようにやっていきたい。総括は、一番のポイントになるのでこだわったのですが、この文章でよろしいですか。では、22ページの総括の最後の文章について承認したいと思います。

26ページ。「平成15年度の水準（23746トン）以下に抑制します」という事を計画の目標としてご承認頂いたのですが、そのあとの、●の三つ目「ごみ量を平成15年度比で家庭系ごみは、1日1人当たりの排出量5%、事業系ごみは20%削減を目指します。」という事で、家庭系5%と

事業系を20%として、計算しますと15年度の実績より総数量が増え、1日あたり排出量設定が甘かった。24年度までの取り組み、あくまで平成15年度の水準以下というのが大きな目標になっていますので、設定がおかしいその辺を再審議します。

15年度が23000、これは事業系も何も入れているわけで、総排出量23746、と。そこで、7%と27%にしないと、下回らない事になります。

横山さんも、5%とはどの位減らしたらいいのか目に見えない部分がある、と。竹村さんも、何gという表現の方が分かりやすい部分もあるのでは、と。%とg数を表記した方がいいのかと、前回の打ち合わせでも出ています。

今後も、審議会の当初から、今後のごみの焼却能力、焼却場の将来、焼却灰の削減、増加を防ぎ、15年度の水準以下と決めておりますので、そういう意味で整合しないと思います。

岸委員 事務局に説明をしていただけると助かります。

資源リサイクル課長 家庭ごみ一人当たりの排出量5%というのは、15年度18726tで、5%では人口等も計算に入れて、20496t。5%減ですと、679gとなります。右の表の一人当たり7%で665g。約50g。何%といったらどの位減らしたらいいか、分からないので、逆に、50gで7%という形にした方が、市民には分かり易いのではないかと。

岸委員 一人当たり50g減らそうという事ですか。

資源リサイクル課長 そうです。ここに書いてあるのは、30何gの5%と書いてあったのですが、50gで、7%という事。ただ%だけだと、市民に分かりにくいので、50gとなれば、ある程度目方とかで解釈できるという意見をいただいております。

岸委員 それで、事業系ごみについては、先程横山先生の方からの意見にもありましたように、年間排出量で20%…

資源リサイクル課課長補佐 それだと目標にいかないのでは、27%減量しないといけないですね。

岸委員 最終案としては、一人一日当たりの排出量を50g減らそう、事業系ごみは一事業所当たり何t減らそう、とした方が分かり易い、という事ですか。

西川会長 事業系ごみについては総量で。

竹村副会長 規模が違うから、事業所毎に。

岸委員 そうすると総量しかないですね。では、一日一人当たり、50g、ペットボトル1本とか。

竹村副会長 卵1個とか。

岸委員 いいですね。卵1個。

西川会長 今岸さんが言っているように、50gというと、目安としてこれぐらいのものを1日減らしてくださいと言いやすいでしょ。5%減らしてくださいという分からないけれど、50グラムだと卵1個か2個かという表現が、皆さんに分かり易いという話です。

岸委員 それで事業系ごみは、中途半端だけれども、27%とする、と。

西川会長 これ27%って、30%だって。

竹村副会長 27%と30%じゃちょっと違いますよね。ちょうどよりも、27%の方がまだね。30だと大きく感じる。

井上委員(商工会) 事業系ごみっていうのは、経済的な背景。例えば、景気がいくら上昇機運に乗って、活発に事業が動くと、ごみを減らすのは難しいですよ。

竹村副会長 27%としても、環境に対して積極的にやるなら、行政が支援策を使わないと、事業系のごみは減らないと思います。事業系の対策は、今後きちんとやっていかないと難しい。事業者だって、井上さんがおっしゃるように、それぞれ事情があって、いろいろな経済ビジネスがあるので、行政も積極的に助成金とか、そういう事をしないと…。

井上委員(商工会) 飴と鞭というのもありますけれど、行政も考えていただければね。

竹村副会長 本県でも国でもそういうのは、支援策に入れてもらえれば。

西川会長 和光市の大きなごみの問題というのは、事業系ごみの伸び率が高い事だと分かっています。家庭ごみの問題について一番のネックは、人口の増加が問題かな。

井上委員(商工会) この統計は、和光市の焼却炉に行くごみを調べているわけですよ。

資源リサイクル課長 はい、そうです。

井上委員(商工会) だから、事業系ごみは和光市の焼却炉に持っていかなければ、いいんだね。

**資源リサイクル課長** 事業系ごみは、今現在一般廃棄物許可業者をもとに、市の清掃センターに運搬していますが、本田技研が、ごみの見直しで、埼玉県の三ヶ山の間処理業者に運搬して、再利用という形で、考えている、という事です。一応、寄居町に現在問い合わせをしている最中です。その許可が下りれば、今年の秋ぐらいには、そちらに移行する予定でいます。

**井上委員（商工会）** そういう点も考えておかないと、ただ30%減らせてって言われても…。

**西川会長** 基本計画の中では、データに基づいた形なので、答申後に、変更がいろいろ出るし、世の中の技術的な問題と、各事業者の対応と。環境に対する考え方が違いますし、自社努力もあり、行政並びに商工会で協議しながら進めていただきたい。

事業系ごみは「27%削減を目指します」という表現に、変更しますがいかがでしょうか。

**横山委員** 具体的にどうしますか。「一人一日当たりの排出量を7%削減」「事業系ごみは総量で27%削減を目指します」として、「家庭の一日当たりの排出量削減7%というのは、50gに相当し、卵1個分である」としますか。

**西川会長** 7%にして(50g)という表現で。

**横山委員** 7%分として(50g)ですか。

**竹村副会長** 本当ならね、「卵1個分」という語呂がいいけれど、7%だと50~60gになります。

**西川会長** 水分を一絞りしてくださいっていうのと同じ。

**西川会長** 一人一日当たり、から逆算するのですか。

**資源リサイクル課課長補佐** そうです。人口の推計と合わせて出します。

**志村委員** 家庭系の、対15年度比の7%50グラム、事務系の27%減、という事ですが、総括で、家庭系は目標達成出来た、となっていますが、実際には、15年度から、和光市の公共施設が、今まで家庭系で集めていたものを、事業系に統計上移りましたので、家庭系の実際7%は、かなり厳しい数字だと思います。学校関係、公民館、市庁舎、それとあと文化センターですね。別途の総務課の方で、予算化して、入札行為で収集は決めました。そういう事実がありますので、実際には、7%50gという部分の数字よりも厳しい内容になると思います。

**竹村副会長** 7%じゃ駄目っていう事？10%じゃないと駄目？

**志村委員** 公共施設で年間150tから160tぐらいの、可燃物、それから不燃物もプラ製品含めてですけども、実際に排出されますので、その分が事業系に移行した統計の数字になっています。

**岸委員** それで事業系が多いのね。

**志村委員** そうですね。

**岸委員** 行政側で把握されていた事ですよね。

**志村委員** 家庭系から事業系に移された経緯は、排出量が事業系において伸びておりましたので、公共施設も事業系という事での認識において、統計の取り方を変えたと思います。

**資源リサイクル課長** 当然市も、学校等も含めて、一事業所になるので、移行しました。

**竹村副会長** 家庭ごみは一日一人当たりの排出量7%減で、15年度の水準以下にするのは実際には難しいですか。

**志村委員** 7%の50gというのは、公共施設が組み込まれた一つの実績ですから、大丈夫ですけども、ただ、事業系としてのごみの排出量の総量27%減、それがかなり厳しいと思います。

先程の本田技研の和光研究所に関して、民間の一般廃棄物処理施設に搬入というお話を頂戴しています。研究所の排出量は、年間160t位です。それを週1回程度で、運送したい旨の話を頂戴していますけれど、実施するにしましても年間150t程度です。

それを事業系の方から差し引いても、残りの3500tぐらいを減らすとなると、かなり厳しい数字だと思います。

施策を具体的に進めていくとしても、各事業所に減量計画書等の提出等が考えられますが、事業系の主要なごみである紙ごみは、リサイクルに回っている部分がかかなりありますので、実際に出てくるのは汚れたごみですね。減量してくださいと事業者さんをお願いしても、難しいと思います。

**横山委員** ただ、ごみの総排出量を15年度水準以下に持っていく、事業系の27%が厳しいとなれば、家庭系ごみの一日一人当たりの排出量を7ではなく9なり10にやっついていかないと、減らせないですよ。

**志村委員** そうですね。その方が、目標値をクリアしやすいと考えております。

**竹村副会長** この表の一番右の、9%で事業系が19%ですよね。それくらいに持っていかないと難しいという事ですか。

**横山委員** そういう事です。そうすると64gですよね。64でも50でもあんまり変わらない。

**岸委員** 9ページ、表3のデータの可燃ごみの事業系ごみを見ると、15年から公共施設が、家庭系から事業系に変わった、として、15年から17年って1%しか変わらない。そんなに増えていません。15年度121、17年度122そんなに公共施設は出していないって事ですか。公共施設が出すごみが、ここで15年度から家庭系から事業系に変わってもそんなに増えていません。14年度から15年度に変わったのですか。

**志村委員** 15年度からです。

**竹村副会長** 家庭系ごみのところが、14年度は17404になっていますよね、15年度が12900だから、これは減っているって事ですね。それがその分だけ事業系ごみが増えているかといったら、そうでもない。

**志村委員** その辺は経済状況に因っての部分もあると思います。

**岸委員** ここで、家庭系は13分別に分けたので、減ったと思っていた。資源リサイクル課の方がよくご存知と思いますが。

**資源リサイクル課課長補佐** 14年11月に新たな分別収集が始まりました。市自体も紙等は分けています。その紙等は清掃センターに入らないで、直接業者に行きますので、その分可燃ごみの量は少なくなる。

結局は、事業所の紙等の資源ごみというのは、他の事業所もそうですけども、許可業者が直接資源化しているので、清掃センターには入らない。紙は紙としてリサイクルされれば、清掃センターに入ってくるごみも少なくなります。

**竹村副会長** 事業系が資源化率を高めていく施策を取ったら、27%の削減も可能とならないですか。

**西川会長** 和光市で受け付ける量を少なくするために、事業系ごみの範疇の方々に努力をお願いする。努力の内容については、これからの施策だと思います。

家庭系ごみも、15年度実績というのは、可燃ごみと不燃ごみ、粗大ごみ等の数値で足したものですので、努力がなされるとすれば、発生抑制も出来る。

**井上委員（商工会）** 和光市民である以上は、商工会も指導したりお願いしたり協力しないといけない。現状では、事業系ごみの種類、実際集めた情報とかわからない。

**志村委員** 主として、俗に言う残飯、包装してあった汚れたプラスチック、包装紙です。事務所系ですと紙ごみが主になります。

**西川会長** 事業系ごみで今後行政と審議していかなくてはいけないのは、商工会の加入率の問題と、実際に和光市内に事業をしている方々に行政指導できる状態なのかどうかです。強制指導できる体制を作らなくてはならない。商工会も、行政だけより、商工会の中でも進めなければならない部分もあるだろうし、そのために商工会の加入率を上げる事を行政も考えなければならない。

**市民環境部長** この基本計画が決まれば、それを行政としてどうやって努力していくか、施策は十分に考えなければならない。

**竹村副会長** 7%と27%で、いいですか。

**市民環境部長** 大丈夫です。

**西川会長** 一日一人当たりの排出量5%のところを7%（55g）で、事業系ごみは総量、20%を27%削減。

39ページ、「和光市清掃センターの課題」で、前回の資料と違うのは、和光市と朝霞市のごみ処理の現況というデータだけです。和光市としての課題をまとめた、回答が「これが現状です」、でいいのか。

**資源リサイクル課長** 和光と朝霞のごみ処理施設の現状は、現在、埼玉県で、今年度中に、ある程度このからの方向性を出す調査をしているところです。年内には、どういう方向でいくか19年度に回答を得られると今のところは聞いています。

**西川会長** それは和光市としての課題というか問題点ですか。

**竹村副会長** この文章で「清掃センターは建築後16年が経過していることから、施設更新時には埼玉県ごみ処理広域化計画に沿って朝霞市と連携して新たにごみ処理施設を設置していくか、現有施設の改造等により施設更新を図ってごみ処理を進めるかの選択をする必要があります。」っていう事ですけれ

ども、2基が1基ずつ交代で使われていて、和光市だけ見たら余裕のある稼働率だと。

それで、この計画は、ごみゼロ和光を目指し、持続可能な循環型社会の実現のために目標立てているわけですから、審議会の意見としてこういう課題を出すのは、ゼロ廃棄物と相反する事で私は疑問に思います。

**岸委員** 私も、基本方針に「ゼロ廃棄物を目指す」とあり、焼却ばかりがごみ処理ではない、と部長も仰っていて、「焼却するものはなるべく減らす、焼却する前に分けよう」だと思っていたので、現状ならいいですが、課題として答申するのはどうか、と思います。

**原委員** わたくしも岸さんと同じで、そう思っております。

**岸委員** なるべく燃やさない方法を課題とするのなら分かるのですが、方法が違うと思います。

**西川会長** 基本計画になるので、「現状」なら附則として入るのだけれども、和光市の清掃センターの課題と、問題、将来をどう捉えるかならば、現状維持をやるのか、改築を見込むのか、改善を中心とした運用をするのか。将来はどちらかにする必要がありますよ、という形で残る事になります。

**井上委員（公募）** 焼却センターが使えないからといって、いきなり作れないですから、行政としてはいずれも対応出来るように、検討していく必要がある、これが適論であるといえます。広域行政というのはいい事だと一般的にいわれていますが、朝霞市とごみ焼却場を共同施設とする事が、和光市としてメリットがあるのか。早くからこの課題は出ていて、もう何年も経っていますから、試算をされていると思うんですね。その試算をどうされているのか、聞かせていただいている時期じゃないのか。

**資源リサイクル課長** 現況で、ごみ処理施設の稼働率は50%強です。朝霞市が、約90%の稼働率です。そうすると損得で申し上げますと、損になるかと。ただ、もし焼却炉が壊れた場合に、突発的に事故等があった時に、和光のごみを、どこに持っていくのかとなると、お互いに協力的な事も視野に入れなければならないと思います。

実際的に、埼玉県では、国の方針として、出来るだけ広域化する事によって、国庫補助の財源の確保。現在、埼玉県に要請しているのが、今ある施設のそのまま使って、朝霞市は朝霞市の、和光は和光の、施設、現営施設の改造等によって更新出来ないか、という事です。その回答等が、今年度中に、ある程度方向性が出て、19年度初めに、結論的なものを出したいという意向は聞いています。

**市民環境部長** 県の具体的な方針が示されていませんので、朝霞市と協議はしておりますけれど、具体的な試算は行っておりません。

**西川会長** 清掃センターについて、課題があれば計画の中で対応しなければならないけれども、現状では稼働率50%で、半分ずつ補修しながら出来ます。何もせずに80%ですと、きついです。我々は、燃やすごみを減らすという一つの大きな目標があり、稼働率50%以下に減らすと、施設として長く使えるわけです。そうすると今現在清掃センターで考えている課題は、ない。

ただ、もう少し細分化された分別収集を進める上で、現機能ではスムーズにいきません、とか、人員配置がうまくいきません、という意味での課題があるのならば挙げていただきたい。

**竹村副会長** 今の清掃センターの課題というのは、資源ごみの分別の施設を改善して、整理して、仕事をし易いようにして、よりスムーズに和光市で自区内処理をして資源化率を高くし、ごみ減を目指す事だと思います。

**西川会長** 我々には、分別も何も全部清掃センターの中でやっているから、一緒に思えます。一般廃棄物処理計画を進めていく上で、清掃センターは大きな機能を持っていますから、そこでの課題は何か、を取り上げていただきたい。この表現だけでは、最終的に清掃センターに行く話が、中途半端という認識があり、あらためてこの場で掲げさせていただきました。

**竹村副会長** 今の、私の意見はいかがですか。課題とするならそういう事じゃないですか。

**原委員** ごみを減らすという事を主眼に考えなければいけないのであれば、リサイクルするという事を徹底しないといけないと思います。でも今、センターの課題は、どうしてもこうしていかなくてはならない状況におかれているのかという気持ちを持ちました。ごみ減量に対する、あくまでも3Rを推進するという事が課題で、それを柱に考えたらリサイクルにもっと力を入れていただきたい。

**井上委員（公募）** 行政の立場は、ごみがゼロにならない時の対応を考えてはおかなければならない。

**市民環境部長** 建築後16年以上が経っておりますので、どこまでメンテナンス出来るかという問題です。清掃センターの炉の寿命というのは15年位だと言われておりますので、どうするのかは考えておかなければならないと思っています。

**井上委員（公募）** どうとでも対応できるように検討はしておく事はやむを得ない。

**市民環境部長** 課題ではなく、現況か現状ではどうですか、。こういう現状です、と。

**岸委員** 清掃センターを改造するとかという事で言えば、資源化施設を作る、もっと充実させる、そういう課題はあると思います。

**西川会長** この計画を進めていく上で、現状の施設が、持っている課題を挙げていただきたいと思います。ただ「中間処理」という項目の中の「2）」、「8. 中間処理」、「1）中間処理の現状」、「2）施設別概要」で、「（2）和光市清掃センターの現状と課題」となってきた、これだけで基本計画が進められるのかどうかはまだ中途半端なので、そういう意味で課題という部分に拘ったんです。

じゃ「（2）和光市清掃センターの現状と課題」というような表現、括弧して。

**資源リサイクル課長** 現状という形でやって、今後は資源化施設の見直しを視野に入れた、とした方がよろしいですか。

**竹村副会長** もう一つ入れていただけるなら、和光市清掃センターの現状と課題という事で、今、こういう問題も抱えています、しかし今後の課題として、資源化施設もきちんと見直して改善するように検討していきます、という事があれば、このままでいいと思います。

**市民環境部長** 重点項目の中に「リサイクル展示場の事業拡大に取り組みます」と書いてありますので、こちらに入れますとちょうど整合性もあるという事ですね。

**竹村副会長** そうです。

**資源リサイクル課長** 「また、資源化施設等の見直しも視野に今後検討していきます」という形でいいですか。

**西川会長** 岸さんの方で頂いた中間処理の関係で下の方に何かあったけれど、説明して頂けますか。

**岸委員** これは竹村さんの意見と同じです。中間処理の現状の下に、中間処理体制の整備という事で「容器包装リサイクルを中心とした、リサイクル体制を推進し、中間処理段階における資源化を進め、最終処分量をゼロに近づける」という文章があるといいと思って書きました。中間処理のところでもゼロというのがあったらいいと思いました。

**西川会長** 今の岸さんのご意見ですが、38ページの途中「中間処理の現状」の表の下にという事ですね。

**竹村副会長** 最終処分量をゼロに近づけるといふのを見直し、さっきの文言の後ろに最終処分量をゼロに近づけていくと入れるかどうかという事です。

**西川会長** 確認しますと、39ページの「選択をする必要があります。また、資源化施設等の整備について見直しを進める。」と付け加える。これが和光市清掃センターの課題と現状。

皆さんに審議いただくべきと思った部分ですが、他に何かありますでしょうか。

**井上委員（公募）** 委託先の業者の不正処理問題の防止策、監視策、抑制策を、基本計画になじまないけれど、考えないと。

**西川会長** 基本計画とは違う行政上の他の項目になりますから。

**横山委員** なじまない可能性はありますね。

**井上委員（公募）** もう一つ。和光市として、自負できる目玉は何なのかを、自覚していく必要がある。

**竹村副会長** 表紙の「基本理念」で「循環型社会実現のためごみゼロ和光をめざします」という事が目玉じゃないですか。

**井上委員（公募）** スローガンに過ぎないでしょ。

**竹村副会長** ごみゼロっていうのは、基本方針できちんと決めた訳で、一番の目玉になると思います。

**西川会長** 和光市みたいな都市部で目指すところは基本的な、今世界的に求められている循環型社会という事と、もう一つは、ごみゼロをめざすという、ゼロはなく、めざすという事をもっと分かってもらいたい理念。

**原委員** ごみゼロをめざすために和光市は何を掲げてめざすのか、というのが頂けたらいいんじゃないですか。

**竹村副会長** ごみゼロめざすための重点項目、それが目玉になるんじゃないですか。

横山委員のご意見で、「地球にやさしい」とか「持続可能な社会の」という文言が消えてしまったけれども、基本方針の目標で「持続可能な循環型社会」ときちんと謳っていますが、「循環型社会実現」の中に「持続可能な」をもう一度復活させて入れていただきたいと思います。

3月29日の文言を精査する時に「持続可能な」まで消えたけれど、次世代につなぐ事が一番の目

標だったので。

**西川会長** 「循環型社会」は、持続していないと「循環型社会」にならないので、横山委員はそういう意味で言ったのかと思いますが。

**横山委員** いや、私が言ったのは「基本理念」のところ、( ) を付けたりそういうごちゃごちゃしたのはいけない、という事。理念がごちゃごちゃというのは一番よくない。私は、「循環型社会」と「持続可能な社会」とどっちがいい、と言ったつもりはないです。ただし、ごみ問題、廃棄物ですから、「循環型社会」の方がなじむと思います。「持続可能な社会」は、もっと具体的な意味でいう時に使うわけで、どっちの方がいいかって言われると、ごみは「循環型社会」の方が当てはまるような気がします。

**西川会長** 循環型というのは持続していないと成り立たないし、ただ1回回ればいい、という意味ではない。総括の中でもありましたように、行政が推進する上で、持続しなかったのが、一番大きな問題ですから、基本計画を持続させて進めていくかが課題になってくる。

**井上委員（公募）** 少なくとも5年間は活着ているわけでしょ。

**西川会長** あと何か。

**竹村副会長** 生ごみ対策の生ごみの堆肥化というのは、どうなっていますか。ごみ減量対策の中では、生ごみの堆肥化で資源化するというのも一つの方向として考えられる事ですけど、あれは前の計画には一切載ってないのですか。

600人の、モニター計画で、市民回収までして、そういう施策を取られたけれども、結局廃止になって。市は、ごみ減計画だとかそういう中に入れていなかったんですか。市民は何やっているのかわからないままに、振り回されたというのを。

**原委員** 何の説明もなく、終わりましたって言われた市民の立場からすると、非常に納得出来なかった。機械が壊れ、修理に莫大なお金がかかるので、燃やした方が安い、という最終的な説明だけ。

**井上委員（公募）** もう一度言いますが、和光市として何を目玉にするのか。和光市として自負できる問題だと認識していく必要がある。

**西川会長** ごみゼロ、ごみをなくす、ゼロに近づけるという事が和光市の大きな目標としてある。短くいって、「ごみゼロ和光をめざす」。

**岸委員** 事業ごみの削減じゃないですか、目玉。

**横山委員** 4章の「ごみの総排出量を15年度の水準以下に抑制して」事業系は27%削減しますとかじゃないですか。スローガンに過ぎないけれども、「ごみゼロ和光をめざします」という事に通じるのではないですか。

**井上委員（商工会）** 生きていく以上は、ごみは生活そのものだと思います。ゼロっていうのは難しい、但し、そのために努力する、と。

**井上委員（商工会）** 具体的に何だと言われたら、事業系は27%、とか、それから市民も生きているんだからゼロという訳にはいかないから、7%ぐらいは努力しましょう、という事じゃないでしょうか。私はそう思いますよ。

**西川会長** という事で、ご理解頂けたか、と。

今日配布されたものを、字句の問題、検討していたところの修正をして、それを答申してよろしいでしょうか。

**横山委員** 結構です。

**原委員** 環境展に行って感じた事で、横浜は力を入れておられて、30%減量、削減という訴えがすばらしく、あの感じた目玉というのは、ごみ袋を結んだようなマスコット人形が「ごみ減量、リサイクルに挑戦」というプラカードを持って、具体的に、一絞りだとか。マイバックも、スーパーの袋の量はどれくらいか裏づけを取り、このごみだったらこれくらい、例えばトレーだったら何グラムですよ、と具体的な姿を見せて、訴えています。

ごみゼロ運動というのも、市民がごみゼロ運動に挑戦しようという意識付けにはなっているけれども、具体的には、街のごみをきれいにしましょうという意識ぐらいで、ごみ減量と繋がっていないと感じておりますので、ごみを出すのは市民ですから、事業系は事業系の方にお任せしたとして、一番大事なのは市民一人ひとりに自覚を持たせるという事が大事と思っております。

目玉というのは、私にしてみれば、訴えとして、今、市民祭りなんかで、訴えてくれている「ワコ



レンジャー」に、市民祭りだけじゃなくて、出場して訴えていったら、それも目玉になっていくんじゃないかと考えております。

**西川会長** 今日頂いたものを修正し、答申で、よろしいですか。

施策で思い切った形で、自信持ってやっていただければと思います。

審議は、今日で終わりとさせていただきます。

**資源リサイクル課長** 指摘された部分を直しまして、7月20日から8月8日の間に、市民からパブリックコメントをいただきまして、次回、そのパブリックコメントを、また審議していただいて、そこで初めて答申をしていただければと、考えております。8月21日午後、会議室は押さえてありますので、そこで答申をいただければと考えております。